

英語科学習指導案

活動場所 北校舎3階 1年4組 教室
生徒数 1年4組 男子16名 計32名
女子16名
指導者 教諭 峠坂 友美

1 単元名

NEW HORIZON 1 Speaking Plus 3 「道案内-乗り物での行き方をたずねる・教える」

2 単元について

本単元では、駅前で外国人男性が由美に話しかけ、バスの行き先や目的地までどのくらい時間がかかるかについてたずねる場面が取り上げられている。道案内は、英語特有の表現がよく使われる場面の一つである。交通手段や道順などの情報を正確に得るためには、道案内で用いられる基本的な表現や質問の仕方について確実に習得させておく必要がある。道案内については、3学年3段階で指導することになっており、第1学年では「乗り物での行き方」、第2学年では「道順」、第3学年では「乗り換えを含む複雑な状況の中での乗り物での行き方」を扱うことになる。本単元においては、バスや列車といった身近な交通機関の基本的な利用の仕方について、実在するバスターミナルや駅、または目的地（地名）などを示しながら、スキット形式で対話活動に取り組ませることにより、定着を図りたい。

言語材料としては、「Which（＋名詞）～？」の形で限定された数の中からの選択をたずねる疑問文や「How long ～？」の形で時間の長さをたずねる疑問文が扱われている。また、行き方を相手に説明する場合に「Take ～。」と命令文が使われており、命令文について復習させるとともに、その構造・意味・機能について再確認させたい。そして、本題材には主語が「物」である文、疑問詞（句）が主語になる構造の文が扱われており、それらの機能・構造を分かりやすく説明することにより理解を深めさせたい。また、生徒はこれまでに疑問詞の用法として「what」と「how」を学習しており、それら既習の疑問詞も示しながら、その用法や答え方について正しく理解し、運用できるようにさせたい。

ほとんどの生徒が楽しみながら学習活動に取り組んでいる。しかし、2学期に入り、基本的な表現が十分に運用できなくなった生徒もおり、到達度に差が見られてきた。例えば対話活動においても、興味をもって取り組む姿勢は見られるが、紋切り型の応答や一往復だけの言葉のやりとりで終わってしまい、より自然な会話にしようと工夫する姿があまり見られない。

そこで、本単元を指導するに当たっては、文法説明中心の学習活動だけではなく、生徒が進んでコミュニケーション活動に取り組んでいけるように、生徒が身近に感じる場面を設定し、生き生きとした臨場感をもたせるようなスキット作成などの表現活動に取り組ませたい。そして、積極的に会話を継続し、発展させていこうとする能力や態度を育成するために、聞き返して確認したり、つなぎ言葉を用いたりした表現や技法を身に付けさせ、自然な形で対話を続けさせるよ

うにしたい。さらに、対話活動において、ペアやグループで相互評価をさせ、課題を明確にし、互いに高め合う場を設けることにより、学ぶ楽しさや成就感を味わわせたい。

3 単元の学習目標

- (1) 間違いを恐れずに、英語で積極的に会話をするができる。
- (2) 相手に目的地までの乗り物での行き方をたずねたり、教えたりすることができる。
- (3) 本文を正しく音読することができ、それぞれの場面での会話の内容を聞き取ることができる。
- (4) ‘Which ~ goes to ~?’ や ‘Take ~ .’ など道案内での場面特有な表現を理解することができる。

4 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	
学習活動における 具体的な評価規準	想定される生徒の学習状況と手だて
① 間違いを恐れず、乗り物での行き方をたずねたり、教えたりする会話を役割に応じて積極的に行っている。	A 会話をする際、役割に応じた表現の仕方を工夫しようとしている。 C つまずいている所を確認し、繰り返し指導を行い、激励することで自信をもたせる。
② 聞き返しやつなぎ言葉を用いるなど、不自然な沈黙をせず話し続けている。	A 聞き返しやつなぎ言葉を用いるなどいろいろな工夫をして、より自然に話を続けている。 C 状況に合った聞き返しやつなぎ言葉を確認し、指導する。
イ 表現の能力	
① 場面や状況に応じて正しく発音することができる。	A 場面や状況に応じて、発音やイントネーションなどに気を付けて話すことができる。 C 場面や状況に応じた強勢、イントネーション、区切りなどを具体的に指導し、練習させる。
② 相手に目的地までの乗り物での行き方をたずねたり、教えたりすることができる。	A 道案内の場面で、それぞれの伝えたいことがよく分かるように、ジェスチャーを使ったり、つなぎ言葉を用いたりして、感情を込めて話すことができる。 C 伝えたいことを確認し、その内容がより伝わるような読み方を教師の後にについて繰り返し練習させる。
ウ 理解の能力	
① 教科書の本文を正しく音読することができる。	A 教科書の本文を暗唱することができ、正しく音読することができる。 C 教師のあとについて何度も繰り返し練習させる。
② 目的地までの乗り物での行き方についての対話の内容を理解することができる。	A 教科書の対話を聞いて、内容を正しく理解することができる。 C 地名や時間など、聞き取る際に大切なキーワードに注意して聞くように指導する。
エ 言語や文化についての知識・理解	
① ‘Which ~ goes to ~?’ や ‘Take ~ .’ など 道案内での場面特有な表現を理解している。	A 道案内の表現を場面や状況に応じて適切に使用するだけの知識を身に付けている。 C 教師が具体的な説明を加え、理解させる。

5 単元の学習及び評価計画

時間	学習の流れ	評価項目	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ スキーマ形成（場面の理解） ○ 重要文の説明及び運用 ○ モデル対話の内容理解 ○ モデル対話の音読練習 ○ ロールプレイ ○ 自己評価 	<ul style="list-style-type: none"> エー① ウー② ウー① 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート ワークシート 観察
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ モデル対話の音読発表 ○ ペアでのスキット作成及び練習 ○ 自己評価・相互評価 	<ul style="list-style-type: none"> イー① アー①② イー② 	<ul style="list-style-type: none"> 観察 観察 観察 自己評価・相互評価
3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○ モデル対話の音読 ○ ペアでのスキット練習① ○ グループでのスキット発表 ○ ペアでのスキット練習② ○ 全体でのスキット発表 ○ 自己評価・相互評価 	<ul style="list-style-type: none"> アー① アー② 	<ul style="list-style-type: none"> 観察 観察 自己評価・相互評価

6 本時の実際（3/3）

(1) 題材名

Speaking Plus 3 「道案内—乗り物での行き方をたずねる・教える」

(2) 学習目標

乗り物での行き方をたずねたり、教えたりする対話ができるようになる。

(3) 授業設計の視点

ア 生徒の学習意欲を高め、他と共有する課題設定の工夫

(ア) 教師のモデルスキットをコンピュータとプロジェクターを使って見せ、生徒の視覚に訴え、興味をもたせる。つなぎ言葉を用いたり、感情を込めたりすることで、より自然な対話になることに気付かせる。

(イ) 前時に他のペアから提案された改善点などを参考に、どういうところに気をつけて練習をすればよいか、ペアごとの課題を明確にし、活動目標（ペア目標）を設定させる。

イ コミュニケーション活動を活性化させる場の工夫

(ア) ペアで練習に取り組む際に、相互評価カードに示されている観点（自然な対話にするための基準）を参考に、互いの到達度を確認し合いながら対話活動に取り組ませる。

めの基準)を参考に、互いの到達度を確認し合いながら対話活動に取り組ませる。

(イ) スキット練習をした後、グループで他のペアと互いに発表して、刺激し合い、高め合わせることで、対話活動をより活性化させる。

ウ 互いの意欲を高め合うことができる評価の工夫

(ア) 相互評価カードを用いて、ペアで互いに発表し、良い点は賞賛し、改善すべき点は助言し合うことで、課題を明確にし、課題追求へのさらなる意欲付けを図る。

(イ) 終末の自己評価の際に、ペア活動についての感想を書かせることにより、対話活動への取り組みを十分に振り返らせ、今後の課題を見いださせる。

(4)授業の展開

課程	時間	学 習 活 動	指導上の留意点と評価 (◆は評価項目)
導 入	13	1 対話文の音読をする。 2 教師のモデルスキットを見る。	<ul style="list-style-type: none"> 人物設定をし、感情を込めて音読練習をさせる。 2種類のビデオを見せ、より自然な対話になるためのポイントを確認する。 <p>-----<視点ア-(ア)>----- 興味を持たせ、本時の課題に取り組む目安にさせる。 (学習意欲を高め、他と共有する課題設定の工夫)</p>
		3 学習目標を確認し、ペアで活動目標を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> ペアで役になりきって、スキットを発表しよう。 </div>	<p>-----<視点ア-(イ)>----- 前時に他のペアから提案された改善点を参考に、ペアで本時の活動目標を設定させる。(他と共有する課題設定の工夫)</p>
展 開	34	5 ペアで、より自然な対話になるように練習に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の活動状況に応じて、個別指導を行ったり全体の到達度の確認を行ったりする。 <p>-----<視点イ-(ア)>----- ペアで練習に取り組む際に、お互いの到達度を確認し合いながら、対話活動に取り組ませる。 (コミュニケーション活動を活性化させる工夫)</p>
		6 グループを作り、他のペアと発表し合い、互いの良い点や改善すべき点について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 評価する相手を確認し、相互評価カードに記入させる。 <p>-----<視点イ-(イ)>----- 互いに発表し、感想を述べたり、助言し合ったりすることで、目標達成に向けて互いに練り合わせる。 (コミュニケーション活動を活性化させる工夫)</p> <p>-----<視点ウ-(ア)>----- 相互評価カードを用いて他のペアと評価し合うことで、それぞれの課題を明確にさせ、課題追求へのさらなる意欲付けを図る。(評価の工夫)</p>
		7 代表ペアが発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 仕上りの良いペアを指名し、発表させることで他のペアの活動意欲をさらに高める。
		8 今までよりも、さらに自然な対話になるように、ペアで練習する。	<ul style="list-style-type: none"> 相互評価カードや代表者発表を参考に練習に取り組ませる。 相互評価カードの項目を達成できたペアは、役を代えたり、スキットの設定を変えたりするなどの新たな課題に取り組ませる。
開	9	9 スキットを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ自発的に発表させるようにする。 <p>◆ 聞き返しやつなぎ言葉を用いるなど、不自然な沈黙をせずに話し続けている。(ア-②)</p>

終 末	3	10 本時の学習を振り返り，自己評価をさせる。 11 次時の学習内容を知らせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観点に沿って自己評価カードに記入させる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin: 2px 0;"> <視点ウー(イ)> ペア活動への取組も振り返らせ，今後の課題を見いださせる。 (互いの意欲を高め合う評価の工夫) </div> ・ 次時の学習活動に対する見通しをもたせる。
--------	---	---	---